

## 第6期 第2回自治基本条例推進委員会 検討部会 会議録（概要）

開催日時	令和5年4月28日(金) 午後5時30分～午後7時00分
開催場所	阪南市役所 別棟2階 第3・4会議室
出席者	【検討部会委員】王生部会長、田中委員、佐渡委員、木村委員、須藤委員 5人出席 【市】政策共創室 藤原室長、御坊谷室長代理、岩下主査、枇榔主事
傍聴人数	0人
議題	○阪南市協働の指針（案）について
資料	○資料1 協働の指針（案）について
会議	<p>あいさつ</p> <p>部会長  皆さん、こんにちは。 本日は2回目の検討部会ということで、前回皆さんにご意見をいただいた協働の指針に加筆するといいいのではないかとということを少し事務局と相談して、資料1を作成いただきました。どのように加筆したのかという部分については後ほど事務局から説明をいただきます。本日で出来るだけこの指針の案を部会でまとめ5月に予定している推進委員会で報告できるようにしたいと思います。 気づいた点や気になるところ、よくわからないところ等を今まで通り遠慮なくご指摘くださいますようお願いいたします。 では次第3、阪南市協働の指針案について、事務局より説明をお願いします。</p> <p>【阪南市協働の指針（案）について】</p> <p>事務局  阪南市協働の指針（案）について、資料1に基づいて説明。</p> <p>（阪南市協働の指針（案）について、委員からの意見、質疑・応答）</p> <p>部会長  ありがとうございます。前回の議論を踏まえてこのような案を事務局に作成いただきました。皆さんには、様々なご意見をいただきたいです。既に資料1では網掛けがされていますが、前回の議論を踏まえて変更した部分がこのような書き方でわかりやすいかどうかということや、また、資料について追記した方がいいのではないかとということがありましたら、その点もご指摘いただければと思います。 もし具体的なご指摘が難しいようでしたら、このようなことを書けばいいのではないかとという抽象的なご指摘でも構いません。ご意見をいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。</p> <p>委員  資料1の8ページの網掛けの2つ目について、「市民協働・共創事業提案制度を通じて事業の募集を行った」と書かれていますが、どのようなことなのでしょう。これでは意味がよくわかりません。</p> <p>部会長  この書き方では、何が協働で何が共創なのかわかりにくいということですね。制度の名前と募集したということだけでは。</p> <p>事務局  市民協働・共創事業提案制度の名称を今年度から変更しました。 こちらは、市民の皆様から行政と一緒に取り組めば、阪南市がより良くなるのではないかとというような事業提案をいただくものがあります。また、行政からも一緒にこのようなことが出来ませんかという投げかけを行うものがあります。この2つの部門を持って、毎年事業募集をさせていただいております。そこから事業と一緒にするということになりましたら、その団体と契約をして、事業に取り組んでいくこととなります。 行政からの投げかけテーマの事例にはなりますが、毎月放送されている阪南TVの中の1つのコーナーで、はなていchという動画コンテンツを作る業務があります。阪南TVは行政からの情報発信ばかりで、あまり興味を引く内容ではないため、阪南市のいいところなどを市民団体に発掘や取材していただきたいという内容で募集を行い、実際そのような事業も進んでおります。</p>

部会長	今の話をそれだけ説明しないと伝わりにくいという事であれば、少し書き方を修正したほうがいいかもしれません。
事務局	どちらかといえば、募集を行うというよりは、この制度を通じて市が良くなるような事業と一緒に取り組んでいるという方がわかりやすいかなと思いましたが、そのように表現を修正したいと思います。
部会長	その方がいいですね。ありがとうございます。他に何かありませんか。
委員	市民公益活動団体が資料1の16ページのところにありますが、その団体は今どれぐらいあるのでしょうか。
事務局	市民公益活動団体は、現在約90団体が登録されています。
委員	事例で、部分によって書体を変えてくれている部分が凄くいいなと思います。
部会長	一見して書いている内容が異なっていることがわかりますね。
委員	資料1の7ページの一番上の網掛けに、「消防職員のOBと自治会が話し合い、自治会の状況に応じた防災講座を開催することができた」とありますが、この文章だけ見れば、消防職員のOBが個人で所属している自治会で話し合っ、防災講座を開催したというように読み取りました。これは具体的にどのような流れで、講座を開催したのでしょうか。
部会長	この事例は、実際に行ったというより、このようになればいいなとか、わかりやすいかなということで記載しています。
委員	資料1の8ページの一番上の網掛けですが「市民活動センターに多様な主体が集い」とありますが、これは具体的に実施しているように思うのですが。
事務局	実際に市民活動センターという場所があります。いわゆる中間支援組織であるというところで、活動されている方や自治会の方でも、気軽に相談に行ける場になっています。 実際に多様な主体が一堂に集うということはあまりありませんが、そのような場にはなりえます。そこで市民活動センターが間に入りながら、相談ののっていま
部会長	相談と集って意見交換することはイコールではない気がします。
事務局	団体同士の交流会のようなものも開催しています。活動が違うような団体等が集い、皆で活動を行っている中で、どのようなことに困っているのかといった意見交換させていただく場を設けたりもしています。
委員	それは、市民活動センターの誰かが行っているのでしょうか。或いはそこに行政が絡んで一緒に行っているとなっているのでしょうか。
事務局	直接的に行政がその中に入っているということではなく、基本的には市民活動センターの方から取り仕切っています。皆さんで困りごと等の共有やこのような工夫をしているという情報交換をする為に集まっていたり形となっています。したがって自発的に皆が集まって、多様な主体の意見交換の場になっているかと言われると少し難しい部分もありますが、そのようなことも発生し得ると思っています。
委員	集まって、みんなで行っている活動について話し合い、その中から課題を見つけていこうという段階だということですね。
委員	団体に私も加入させていただいており、そこで展示も行いました。様々な団体の活動についてのパネルの掲示や作品展示を行い、5日間ぐらいいろんな人に見物していただきました。それが終了した後に各団体が集まり、異なる分野で活動されている方と情報交換をしました。あれはよかったかなと思いました。
部会長	私はこれを見たとき、それぞれの団体が抱えている課題の解決の優先順位が低いというつもりは無いですが、この課題解決は、市が持っている課題解決だと思いました。どちらも重要であることは理解できます。しかし、共創の事例であれば、何か地域で困りごとや、こんなことしたいと思っているが出来ていないということを、みんなですれれば上手くいくかという話をしたことがメインなのかなと思ってこの事例は考えていました。

事務局	どちらがということでもないかなと思っています。地域的な問題や市全体を通しての課題も当然あるでしょうし、団体や団体間の問題が、様々な課題かなと思います。この事例は、第2章の現状と課題を踏まえてとの取り組み事例となりますので、多様な課題解決の場の意見交換かなと思います。
部会長	ということであれば、この文章がかなり抽象的です。もし、その事例について書くのであれば、その事例を思い浮かべることが出来るような記載の仕方をした方が伝わりやすいと思います。 私はどちらかといえば、まちづくり会議のような話かなって思っていました。
事務局	もっと具体的な例であれば、市民活動センターでスマホ講座を開催していますが、それを受講された方が、週1回の相談員（市民）が市民へスマホの使い方を教える活動に携わっていただいたりしています。課題解決といったら大層なんです。あと地域のカフェで意見交換したりとか。具体的に書けないのでその中間的な表現になるかなと思います。
部会長	課題解決に向けて気軽に相談できる場所ということでしたので、最初に委員が話してくれたような、既に市民活動センターで取り組んでいることを書いてもいいと思います。今事務局が説明したようなことを書いてもいいと思いますから、この書き方は直しましょう。
委員	スマホの部屋はすごく多くの方が来ています。私も他の方へわからなければ聞きに行くと宣伝しています。
部会長	それがあつて繋がりができますし、色々な世代の方々がいて助かりますね。
委員	資料1の16ページの介護サービス事業所のところですが、私の勉強不足で申し訳ありませんが、活動団体が90団体あると先程説明がありました。活動団体の全てが介護サービス事業所へ赴いている訳ではないですよ。
事務局	介護事業所というところであれば、この例に挙げられている団体ぐらいかなという気がします。同様に傾聴ボランティアを実施されている団体もいますが、その他の団体が介護事業者まで行かれているかは把握できていないです。ただこの団体は、介護事業所へ通われており、他の事業所からもぜひ来てくださいという形でオファーもいただいたりしながら、活動されています。
部会長	様々な得意分野がある団体が介護事業所に順に入ってくだされれば、そこにいらっしゃる方も喜ばれますよね。
委員	資料1の5ページの協働の定義・考え方に共創についての説明が少しだけあるのですが、説明はこれだけでいいのでしょうか。
部会長	共創についてもう少し説明した方がいいということでしょうか。
委員	今の説明でも凄くわかりやすいなと思ったのですが、ただ前回、共創とは何かについて凄くこだわっていたなと思ひまして。
部会長	あくまで協働の指針をきっちり分かっていただくことが一番重要だと思います。共創という新しい考え方は、最初に協働の指針を議論した時になかった考え方でした。それを付け加えなければならぬということはわかりますが、それをどこまで伝えるべきかはもう少し議論した方がよさそうですね。
委員	協働の内数に共創があるということですよ。
部会長	そうですね。前回その確認を行いました。新しい価値や事業等の想像・構築段階から協働することを共創だということ。協働と共創の関係が分かりづらいのであれば、図を入れることを考えてもいいかもしれません。 今まで市において説明に利用した資料の中で、何かその2つの関係を示しているものはないですか。

事務局	先に策定しました総合計画においては、協働と共創の関係を表す図を入れるのは避けており、現時点でお示しできる資料はない状況です。
部会長	これを読む人にどこまでわかっていたかだと思います。おそらく前回委員の皆さんが気にしてくださったように、その2つの言葉の関係がどうなるのかだと思います。今回、共創という言葉を加えなければならないという議論になったので、私達は気にしています。そこをしっかりと理解していなければ指針への落とし込みが出来ないため、今回はその話をしたと思います。 それを例えば、推進委員会の皆さんに分かっていただくべきことと、出来上がった後に、この協働の指針を職員や市民にどこまで分かっていたか必要があるかは、それぞれ違うかもしれません。 この案に図を入れないにしても、推進委員会では協働と共創は何が違うのかという説明を求められると思いますので、出来るだけイメージしていただけるように準備しておく必要があると思います。
委員	資料1の11ページの図で、真ん中に協働とありますが、この枠を大きくして、その中に共創という言葉を入れるとかはどうでしょうか。
事務局	協働は共創を包含をしておりますので、中に入れるのはわかりやすいかもしれません。
部会長	そこに入れるのはいい考えですね。どのように入れるかは考えなければなりません。
事務局	先程議論があった定義の考え方の中に、小さい図を入れて、関係性はこのような形と示した方がわかりやすいかもしれません。
部会長	あくまで、協働と共創の関係を説明するための資料として図を挿入した方が、誤解が少ないのではないかと思います。 それはそうかもしれませんが、それが入るだけでかなり違いますね。 前から意見も出ていましたが、どのくらい伝えたいかですね。協働の指針を、協働・共創の指針としてしまうと、おそらく指針中の全て文言を協働・共創にしなければならぬという話も前回したかと思いますが。その表記だと内数ではなくなり、また、括弧書きにすれば言い換えているように見えます。なので、見せ方が難しいです。
委員	他のところに、共創の前にコ・クリエーションという言葉が入っていませんかでしたか。その言葉を共創としなくていいのでしょうか。
委員	前回の部会でコ・クリエーション、共創の考え方が民間とは少し異なると事務局が説明していました。そのため、あえてコ・クリエーションという言葉を入れていると思いました。
事務局	民間の共創の考え方の中には、パートナーシップというものがあります。そこは市が考えている共創とは異なります。本市の共創は、協働の中の一つの手法として共創があるということです。
委員	そうであれば、資料1の5ページの網掛けの下スペースで、協働の中に共創があるという図を記載してもいいのではないかと思います。
部会長	それを加えてみましょうか。図があるだけで説明がしやすくなりますね。
事務局	協働の定義の考え方と共創の定義の考え方と並びますので、その下に図式化することによって棲み分けがしやすくなるのかなと思います。その形で資料を修正させていただきます。追記する図に関してはどのような形が一番わかりやすいのか、少し考えさせていただきます。

部会長	<p>今回、共創の整理をしっかりと示していただいたので、例えば、資料1の2ページの課題のところに加筆していただいた、「ともに新しい目標を設定する」という文章があります。これは新しい価値を作るということを言い換えた文章ですが、「これまでにない事業を生み出す」というようなことも入れてもいいかもしれません。</p> <p>何度も繰り返すと読みにくくなるかもしれませんから、不要な言葉を削除することも必要かもかもしれませんが、ただ、今まで取り組んだことのない新しい事業を生み出していくような言い方が、まだイメージしやすいような気がします。</p> <p>新しいアイデアで、新しい事業を生み出して、少しでもまちを良くしようということが伝わるように、何か言葉を足せないか考えたいと思います。</p> <p>他にこの部分も変更や加筆すればどうかということはありませんか。</p> <p>推進委員会のメンバーで、前の協働の指針に携わっておられた方も結構いたような気がします。</p>
事務局	<p>推進委員会のメンバーの中で、前回の協働の指針に携わっていただいた方は2名おられます。</p>
部会長	<p>変更していないところに指摘が来るかもしれませんね。その場合はもう全体的にバージョンアップさせると理解してよろしいですか。</p>
事務局	<p>その解釈で結構です。今回の共創だけにとらわれず、指針全体として意見をいただければと思います。</p>
部会長	<p>資料1の6ページの期待される効果として、3つ目のところに網掛けを1つ追加しましたね。「自分たちがしたいこと・必要なもの」とありますが、「もの」を「取り組み」という文言にしてもいいかもしれません。</p> <p>また、大事なところですが、9ページの第6章担い手の役割のところ、みんなができることの5つ目を文で追加しました。「意見を出し合って身近な共通の目標を決めていきましょう」という文です。このような書き方でいいか、他の表現の方が分かりやすい等があれば、ぜひご提案いただきたいと思いますが、いかがでしょう。</p>
委員	<p>例えば、Aさんが意見を持っておられ、それを出し合うというのは、先程の話にもあった活動センターを使いなさいということでしょうか。</p>
部会長	<p>場所は関係ありません。市民活動センターの場でもそうですし、地域で様々な取り組みをしている時でもそうだと思います。</p> <p>皆がそのような意識を持っていれば、それぞれの方が活動する場所で色々共有しながら、目標を決めていけますよね。是非そうやっていただきたいなという思いがあります。</p>
委員	<p>そうしなければ物事が前進しないですよ。</p>
部会長	<p>他どうでしょうか。事務局このような感じでよろしいですか。</p>
委員	<p>資料1の9ページの「意見を出し合って身近な共通の目標を決めていきましょう」という文があります。その中で意見を出し合うという部分は個人で何か思った時に、まずどこに行けばいいのでしょうか。例えば自治会に加入していない方とかはどうするのでしょうか。いきなり行政へ持って行って、こう思っていますと言いに行くのでしょうか。それとも団体に頼っていく方が良いでしょう。</p>
部会長	<p>この文の2つ上に「協働のきっかけとして、出会いの場に参加し、つながりを広げましょう」と記載させていただいています。</p> <p>直接的な答えにはならないかもしれませんが、この5つの文は出来る順番に並べ直した方がいいかもしれません。</p> <p>先ほどのご意見としては「活動を始める時には」というような文言を最初に書いた方がいいということでしょうか。おそらく行政に行くとか、市民活動センターに行くという具体的な話はなかなか落とし込めないで、少し補足する言葉を追加しましょう。そうでなければ、どのような場で意見を出し合うのかという話になりますよね。いきなり意見出し合っという記述では少し分かりにくいのはその通りだと思います。</p>
委員	<p>個人で思った時に、あまり繋がりを持っていない人がどこに行けばいいのかという話でした。また、どこで意見を出し合うのかなど。</p>

部会長	おっしゃるとおり、今まで活動していない人は、まずそこからですよ。なので、みんなが出来ることの順番を見直せばわかりやすくなるかなと思いました。あまり繋がりが無い人や、どうしていいかわからない人もいますので、その辺りは、指針が出来上がった次のステップとしてもう少し具体的な事を考えていくのではないかなと思っていますが、指針は作成して終わりということでしょうか。
事務局	指針は、自治基本条例に規定しています協働を推進するために、共通のルールを定めた方がわかりやすいのではという部分から始まったものです。また、共通のルールとしてみんなが認識しながら、あらゆる事に取り組むことを目的としているため、指針を作って終わりということではありません。
委員	資料1の9ページですが、表題が第6章担い手の役割になっていますが、これは協働のまちづくりの推進についての担い手の役割という意味でしょうか。
部会長	そうです。協働の担い手の役割です。
委員	そうであれば、協働のまちづくりの推進というところをもう少し目立つように、書いていただいてもいいような気がします。
部会長	それがもう少し目立つようにすれば、できることの記事もイメージしやすくなるという事ですかね。
委員	意見を出し合って身近な共通の目標ということで、個人が何か言いたいなと思っても、それが自分自身だけのことで、意見出し終えてもあまり意味がないと思います。まち全体のことや市民全体のことについての意見ですよ。その部分をもっと少し全体に分かりやすいように表現するべきだと思います。例えば、協働のまちづくりの推進のために、みんなができることとか。
部会長	「第3章の」から始まる文や「担い手がそれぞれの立場で」という文など、いきなりみんなができることや、市民ができることになっていますので、ご指摘いただいた内容を追記しましょう。追記した文章を読んだ上で、個々のできることにいけば、もう少しわかりやすくなりますね。他にいかがでしょうか。本日出していただいた内容をまとめて推進委員会に報告することになります。どのようにまとめ表現していくのかは、私と事務局にて行っていきます。推進委員会の前に、完成したものを部会員の皆さんに見ていただければと思います。
事務局	そうですね。事前に確認いただく機会を設けたいと思います。その資料についてご意見等があれば、おっしゃっていただき、それらのご意見も反映させた上で、最終的に推進委員会の資料という形にしていきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。
部会長	その他特にご意見無いようですので、部会での検討を終了したいと思います。ご協力ありがとうございました。次に次第の4、その他について事務局より説明をお願いします。
【その他について】	
事務局	その他について、次回の日程について説明。
部会長	ありがとうございました。では、以上で本日予定していた案件が全て終了いたしました。お忙しい中ご出席いただきまして、そして色々ご指摘いただきまして、誠にありがとうございました。